

## 堀川再生のための連携プロジェクト第4グループ第2回会合

### 1. 全体概要

1) 日時 5月28日(日)

(1) 船上視察 10:00~12:30, 朝日橋(船着き場)~堀川起点(山崎川と堀川の交点)往復。

(2) ワークショップ 14:00~16:00 場所: 名古屋工業大学, 24号館116号室

### 2. 船上視察

1) 船上視察参加者:

[堀川ライオンズクラブ]徳永東三・西田忠司・服部宏、[名古屋市 堀川総合整備室]加藤丈晴、[名工大 和久研]和久昭正・兼松健治・吉田尚・小池隆之、鎌田高史、[名工大 富永研]富永晃宏・篠田藍子・門田悠希・岩倉進悟、[名城大学]原田守博、[中部大学 松尾研]武田誠・川本拓哉・開地勇介・杉山広明、[高年大学]佐伯正、[名古屋市立大学]及川理、[国交省中部地整]尾中宗久・近藤貴之、東山尚(中部経済連合) 以上23名

2) 船上視察状況

10:20、朝日橋を出発。曇り空。潮は、干潮へ向かう時間帯。

名古屋市堀川総合整備室の加藤様の解説、ライオンズクラブの徳永様、服部様、東山ガーデンの渡辺常務のコメントを聞きながらの視察であった。

復路は、潮が引いた状態であったため、ヘド口の堆積状況や、護岸の鋼矢板の腐食状況、石積みの破損箇所が各所で見られた。

当日朝まで降っていた雨のため、臭いはきつかった。

船の速度は、往路は7ノット(13km/h)程度であった。しかし、復路は、干潮のために水深が浅くなり、州崎橋付近を越えたあたりからノロノロ運行状態となった。

### 3. ワークショップ

1) ワークショップ参加者

[堀川 LC]徳永東三、[高年大学]佐伯正、[名古屋市]加藤丈晴、[名工大]和久昭正・兼松健治・吉田尚・原陽平・小池隆之・篠田藍子、[名古屋市立大学]及川理、[中部大]開地勇介 以上11名

2) 議事録・議題(案)確認

(1) 第4班の前回議事録及び、第5班の議事録確認

(2) 議題(案): 堀川の良さの再発見 コンセプト「堀川に親しみ歴史を学ぶ」

3) 出された意見

和久: 本日の議題(案)を説明。コンセプト「堀川に親しみ歴史を学ぶ」を中心に検討する。

配付資料に基づきキーワード及びアウトプットについて説明。

第5班のコンセプトは環境学習と情報発信であり、我々の班のコンセプトに近い。第5班のワーキング議事録(5/20)も参考にする。

堀川には、子供達に伝えていきたい誇るべき歴史や、逆に負の歴史がたくさんある。

佐伯: 空襲が激しくなって、爆撃機B9が来ると、庭に穴を掘って、隠れていた。疎開が

始まっていたが、疎開しなかった学童や、工場勤務の人々が空襲で沢山なくなった。

徳永：福島正則は愛知県美和町が生まれ。堀川の歴史においては外せない人物である。

小学生や中学生に歴史を学ぶにはどうしたら良いか、そこを考えていきたい。

名古屋市守山区在住の漫画家 森哲郎さんに万博で人形劇をやってもらって、そのセットが残っている。

加藤：歴史にゆかりがある土地で加藤清正、福島正則、3英傑など。

及川：船上視察の感想としては、まだまだ小学生などが遠足するには完璧とは言えない。

視覚など感覚的なところをもっと強化をしていきたい。

加藤：1610年に開削された朝日橋から下流と上流では、また違う顔を持っている。

佐伯：日曜日の割にはウインズのある尾頭橋以外は少なかった。鶴舞公園の花祭りのように堀川に人が集まる何かないか。末吉さんが歴史に関して本（堀川沿革史）を書かれている。

及川：朝日橋から下流は確かに歴史をアピールすべきだと思う。下流にも上流のように子供たちが遊べる場所を見つけようと考えながら舟に乗ったが適した場所がなかった。環境教育は、まず水辺に親しんで欲しいと思っている。

加藤：プロムナードは納屋橋、黒川、白鳥、御用水外苑などがある。

佐伯：松重閘門周辺にもっと見るところがあるかと思ったが・・・。

もっと立ち寄って魅力が感じられるところが欲しい。

加藤：白鳥公園は見るところがある。

佐伯：極端な話、堀川沿いにバラを植えれば鶴舞公園のようになるかもしれない。

宮の渡しも人が少なかったように感じられる。

和久：名古屋市では松重閘門についてどのように残していく検討しているか？

加藤：公園として残していきたいと考えている。今、松重などいろいろなところに関して検討している。

及川：危険だという要因があるが、下流は水辺から隔離されているところが多い。

そういう意味ではやはり水量、川幅の小さい上流なのかなと感じた。

和久：道頓堀にはウッドデッキがあり、親水化を図っている

加藤：道頓堀は水位が一定化されている。

ヘドロ処理をするときに小学生の見学会はたくさん来た。

和久：まずはヘドロを除去することが重要である。

佐伯：やるなら徹底的にやらないとだめだ。

加藤：その際、除去した後のことも考えないといけない。

徳永：ヘドロ処理は、簡単にはいかないことなので、小学生や中学生に対してずっと継続してけるような環境学習が必要だ。

吉田：区切りを作って釣堀大会をやりたい。

篠田：小学生の子達に自分たちで川沿いに植物を植えてもらって、意識付けをしたい

及川：今日のように川面からの視点で、歴史について教えられるようにしたい。

兼松：鶴舞公園は季節の変化がよくわかる。それを花というもので表現しているから常に

人がいる。堀川にもいつも違う顔が見られるようなところがあればよい。

徳永：宮の渡しの対岸に葦原を作れないかと考えている。

加藤：堀川整備室としては、やりたいと考えている。

徳永：そのときに行政が工事までするのではなく地元の人にも協力してもらいたい。

堀川に関心あるない関係なく、たくさんの人を巻き込みたい。

和久：住民参加型の公共事業というのは、他の事例を見ても良いと思う。

加藤：堀川は環境と同時に治水についても考えられているので、川幅に余裕があるところ  
でないと植生などはなかなかできない。

和久：求められているものとしては親水性の高いものが求められているようだ。

堀川整備局のやっている事業計画を知りたい。それによって何かアイデアが浮かぶと思わ  
れる。

加藤：今計画を作っているところです。30年でどうしていくかを作っているところです。

佐伯：キーワードとして挙がっている堀川のチェックポイントで、それぞれ行われている  
行事予定、イベント予定を知りたい。見学に行って、そこから広げていきたい。

原：堀川沿いを散歩しようとしたら、大通りを横切ることが多かった。

徳永：白鳥プロムナードは、そういうことをなくした代表的な良い例である。

開地：全体として川が汚い。どこが特に汚れているのでしょうか？

加藤：上流部はヘドロ臭、下流部はメタン臭。BODの数字では港新橋が高い。

BODではなくもっと評価する指標がないか。臭いでも同様。

徳永：堀川は干潮河川なのでゴミは行ったりきたりしている。

## (2)次回の議題及び宿題

水に親しみ歴史を学べるような方策を考える。そのために名古屋市が考えている事業計  
画について学習する。また堀川沿いで行われているイベントについて情報収集する(加藤  
様)

人が堀川に集まるような手だてを考える。例えば季節感を感じられるイベントとは何か  
を考える。

七里の渡し付近の葦原を利用した、住民参加型環境事業の推進策を考える。  
例えば、住民に葦を植える作業、刈り取る作業等に参加してもらおう。浄化効果を勉強する。  
住民に参加していただき、協働で事業を進める。等々。次々回には現地を見る。

本日配布されたパンフレットを熟読しておく・・・全員

意見があれば和久教員にメールする。

## 4. 次回日程

6月25日(日) 14:00~16:00, 名工大 24号館116号室

以上